



ワクチン劇場、人間模様…

急ぎよ思い立って、7月2日にコロナワクチンを接種した。当日まで、まさか自分が打つとは思ってもよくなかった。

その日は友人がワクチン接種会場で打つというので、記事の参考にしようと思いつき添うつもりだった。「付き添いの人も夕方6時以降に余っているワクチンを打ってもらえる」と聞いたので、もし余っていれば打つのも運命か…と思った。

ドイツでは2020年12月27日から正式にワクチン接種が始まり、高齢者や医療関係者、教育関係者などが優先的に接種を受けてきた。ワクチンについては、試験期間が短く将来どのような影響があるかわからない。だからずっと打つべきか否かの決断を、後伸ばしにしてきた。私は大学図書館で働いているため、優先順位で第3グループに入る。その証明書が5月末に送られてきたが、それを使わないうちに、6月7日から誰でも接種できるようになった。

その前から一般の人もホームドクター(家庭医)や整形外科、小児科など各診療所で打ち始めていた。旅行や催しにコロナ陰性証明なしで行けるという理由で接種する人も少なくない。ワクチンはもちろん、コロナ陰性証明が出るコロナ簡易テストも無料であり、ドイツ在住の外国人も同じである。

最近までワクチン不足で予約が取れない状況だったのに、今は当日でも予約できるとわかり、友人と同じ17時に指定し、2回目は8月13日にした。接種会場に行っても、納得できなければ打た

なければいいと自分に言い聞かせた。

接種会場では、受付と書類確認に続いて、医師による問診があった。

どのくらい効き目が持続するか聞いた。「よくわかりません。6ヶ月か、8ヶ月か、もっと長いかもしれませんが。けれど接種を始めたばかりで、よくわかっていません。」

変異株に効くのか? 「わかりません。たぶん接種しないよりはした方が、かかっても軽くて済むでしょう」

接種しても、コロナに感染する可能性は? 「あります。別の人にうつす可能性もあります。自分と周りの人の安全のために間隔を取り、マスクをすることは今後も必要です」

子どもへの接種は? 「STIKO(ドイツ予防接種常設委員会)は、推奨していません。感染すると生命に関わる家族がいるなど特別な場合は、子どもへのリスクをよく考慮して決めます」

ワクチンについて直接医師と話したのは初めてだった。これまで「ワクチンを打つのは自分と周りの人たちのためだ」と聞いても、躊躇する自分がいた。将来的なリスクだって不確定だ。けれど医師の説明を聞いて、打とうと思った。

「ワクチンは完璧ではなく、未知な部分が多い。けれど打つかどうか決めるのはあなたで、打つことで危険が防げるのですよ」というメッセージが伝わってきたからだ。打つべきだと言われなかったし、わからないことだらけと聞い



て、かえって安心した。そしてその上で打つかどうかを決めるのは自分なのだ。

医師に礼を言って廊下に出ると、救急隊

の若い女性に「こちらへ」と笑顔で促され、明るい接種ブースに入った。そこからはあつという間で接種は終わった。

実際のところ、接種現場は混乱している。7月初め「アストラゼネカとバイオンテックと各1回打った方が効果が高い」「バイオンテックだけの人は3回目が必要かも」と発表されたからだ。1回目アストラゼネカだった人が、2回目をバイオンテックで早く打ちたいと問い合わせが殺到した。

ワクチンセンターはもちろん各診療所に電話をかけてあちこちにアポを取る人も出た。一方、不要となった予約を取り消すのを忘れて、別の用事があつたりして、2回目の接種にこない人が数万人にのぼり、問題となっている。

ドイツでは7月16日時点で60%が1回目を終え、2回した人は46%にのぼる。10人に聞くと10人が違う方法で接種しており、「なんであの人が先に…」などさまざまな考えが頭を巡ってストレスとなった人も少なくない。ワクチン接種にはいろんなドラマがあり、それぞれの考えがある。ひとりひとりが納得して決めること、強制しないこと、正義を振りかざさないこと。それが重要だと感じた。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

AKIRA の 成長記録

今年も7月21日で終わり。教科書は買うこともできますが、明のクラスでは8割の子が学校から借りています。夏休み前の2週間、すでに教科書を返したため授業らしい授業はなく、英語や仏語での映画鑑賞やピクニック、スポーツ大会、カヌー乗りなどをしました。コロナ禍で半分以上学校に行かなかったのに、授業の遅れを取り戻すという感じはない。英語はみんな学習不足とわかっているのに、先生がわざと簡単なテストを作り、全員が8割以上正解したそうです。

13歳の明はここ半年で急に背が伸び、声変わりが始まりました。先日小児科で検診を受け、身長162センチ、体重45キロでした。医師に「今日は何日?」ときかれ「うーん、わからない」と明。「何月?」「7月」「7月の初め、終わり?」「初め」と続き、「アイスの種類を10個あげて」「チョコ、メロン、イチゴ・・・(6つぐらいで詰まる)」。腕を左右に広げた状態で足を片方ずつ上げたり、左右の人差し指で交互に鼻を触るなど運動機能もチェックしました。最後に「何か悩みはある?」ときかれ「ありません」と即答。いろいろ答えられず心配しましたが、医師は「元気に育つてますね、問題ありません」とにこにこ顔でした。